原著

# 中国都市部に在住する中国人の母親の育児幸福感と結婚の“現実”
## —日本在住の日本人の母親との比較—

長野県看護大学
清水　嘉子

**抄　録**

本研究の目的は，中国と日本の母親の育児幸福感と結婚の現実の違い，中国の母親の属性要因と育児幸福感ならびに結婚の現実の関連性を検討することにある。研究対象者は，640名の0～6歳の子どもをもつ中国の母親と日本の母親764名である。研究方法は質問紙調査により，8つの下位尺度からなるChildcare Happiness Scale（CHS）を用い育児幸福感を測定した。また，結婚生活の影響を検討するため，3つの下位尺度からなる結婚の“現実”尺度を用いて測定した。分析は統計学的な分析を行った。中国と日本の比較において，結婚の“現実”では中国の母親は日本の母親に比べ3下位尺度項目すべてが高く，CHSにおいて“夫への感謝の念”ならびに“子どもに必要とされること”が高い結果となった。また，中国の母親のフルタイム，パートタイム，専業主婦，ならびに核家族，複合家族，単身家族のそれぞれ3つのグループに違いがみられた。母親の年齢は，CHSの8つの下位尺度得点ならびに結婚の“現実”の下位尺度得点に全く影響を与えなかった。中国の母親にとってフルタイム勤務または核家族であることが，育児中の母親の精神的健康に効果があると考えられた。

キーワード：中国都市部，母親，育児幸福感，結婚の現実

## I．緒　言

1979年から中国で進められている1人っ子政策は，急激な人口増加を抑制するために大きな貢献をもたらしたといえる。こうした中で，1人っ子による子育てのさまざまな問題について多くの研究報告がなされている。なかでも親の養育態度や子どもの性格などの育ちに着目したものがある。1人っ子の子どもの知能，性格，社会適応では，依存性の高さや社会性の低さ，知的能力の高さについて，また着衣重量が多く，戸外遊び時間の短縮傾向，運動能力の低さなどが指摘されている[1,2]。子育てにおける親の養育態度では，過保護，溺愛，大きな期待をかけるなどの傾向になりがちで，それにより1人っ子にありがちな子どもの性格を形成しているといわれている[3]。また，子育てしている母親の不安が高いにもかかわらず，一般的な幸福感が高いなどの特徴が認められている[1]。一般的な幸福感が高いことについては家族のサポートやお手伝いなどのソーシャルサポートの影響や子育てに対する社会のとらえ方が，わが国の状況とは異なっていることが影響していると考えられている[5]。中国では，子どもを育てながら働いている母親が大勢を占めているが，傍系も含めた親族間の家事や食事の共同が日常的で，日頃から世帯の独立性が低く，子どものあずけ合いも援助というより当然のこととして行われる。また，子どもの面倒をみるのは祖父母という規範がある。さらに，社会主義政策のもと，共働き社会が形成されたため，男性の家事能力が高く父親が母親と対等に近いケア役割をはたしていることなどがある。

一方，母親の育児ストレスの国際比較において

ブラジル，韓国，日本に比して中国の母親が最も高いことが明らかにされている[6]。1人っ子による育児に不慣れであることからくるストレスと考えられた。実際，中国の父母の幼児に対する児童虐待傾向において，母親が高い傾向を示しており，身体的，心理的虐待が高いとの研究結果もある[7]。このように中国の母親の心理状態についてはいくつかの側面から明らかにされているが，こうした報告は十分とはいえない。とくに，中国の母親の育児幸福感に関連した要因との分析を試みた報告は見当たらない。そこで，本研究では，中国の母親の育児幸福感と属性要因との検討を行った。本研究の仮説は，中国の母親の育児幸福感は，母親が働くことによって子どもに対するかかわりの意義がはっきりし，育児幸福感を味わえるのではないかと考える。また，母親の年齢や，家族形態，就労形態による育児幸福感にもたらす影響が推測される。これらの仮説を検証するために清水ら[8]が開発した尺度Childcare Happiness Scale（CHS）を用い，育児幸福感を測定するために使用した。

また，結婚生活が育児幸福感に影響すると考えられることから，柏木ら[9]による結婚の“現実”尺度を用い，CHSとの検討とともに属性要因との検討を行う。とくに，中国における母親の特徴を明確にする意味において日本の育児幸福感ならびに結婚の現実データとの比較を行っている。本研究は中国の母親の理解に直結した課題の解明にあるが，中国在留邦人の母親や在日中国人の母親に対する援助への示唆を得られるものと考える。

## Ⅱ．研究方法

### 1．調査対象

末子年齢が6歳以下の乳幼児を育児している母親を対象とする。

### 2．調査方法

1）調査地域ならびに調査施設

中国T市5幼稚園に合計700部を配布した。T市は中国4つの直轄市の1つで，人口は600万人である。この地域は中国北部にある環渤海湾地域の経済的中心地で，中国北方最大の対外開放港である。中国首都とは高速道路と高速直通列車によって2時間以内で結ばれており中国の工業および貿易の拠点として発展し現在に至っている。日本においては3市12保育園4幼稚園に合計1,420部を配布した。東京近郊にある県に所在する人口3～5万規模の中核都市であるA，E，L市において調査を行った。

2）調査期間

中国　2007年8～9月

日本　2005年8～9月

3）調査方法

保育園の保育士よりアンケート用紙を配布し，留め置いた後，園で回収した。中国における調査依頼文，ならびに調査用紙は，すべて日本語を北京語に翻訳したものを用いた。調査用紙の翻訳は，日本語と北京語に精通している，中国在住の中国人の大学教員に依頼した。

### 3．調査内容

1）母親の属性

母親の年齢，子どもの数，就労状況（フルタイム勤務・パートタイム勤務・専業主婦），家族形態（核家族・複合家族・単身家族）について回答を求めた。

2）育児幸福感尺度Childcare Happiness Scale（CHS）

CHSの項目を選定するための予備的な研究[10]において，育児中に感じる幸せな気持ちについて，Lazarus理論[11, 12]に基づいた肯定的な情動である①安心，②希望，③愛情，④喜び，⑤感謝，⑥同情，⑦誇りの情動を感じる際の場面についての自由記述によって得られた場面を分類，整理し，64項目が選び出された。これらの64項目に対して，改めて5段階評価（“あてはまる”を5点～“あてはまらない”を1点）による回答を求め，調査結果に対して因子分析（最尤法，プロマックス回転）を行い8因子，41項目を採用した[8]。各因子は、次のとおりである。41項目全体の内的整合性を表す$\alpha$係数は0.95。第1因子は，「子どもの成長」，第2因子は，「希望と生きがい」，第3因子「親としての成長」，第4因子は，「子どもに必要とされること」，第5因子は，「夫への感謝の念」，第6因子は，「新たな人間関係」，第7因子は「子どもからの感謝や癒し」，第8因子は，「出産や子育ての意義」である。これらの8因子の$\alpha$係数はすべての因子において十分な値（0.867

～0.768）が得られ，各項目の内的整合性が認められている。したがって，各因子の項目を単純合算し，下位尺度として分析に使用する。

3）結婚の“現実”尺度

結婚生活をとらえるために，柏木ら[9]による3下位尺度からなる結婚の“現実”尺度を使用した。3下位尺度項目は「相思相愛」「夫への理解・支持」「妻への理解・支持」からなる12項目で構成されている。オリジナルでは，「夫への理解支持」の項目には妻が，「妻への理解・支持」は夫が回答するものであったが，本研究では，「妻への理解・支持」の4項目について「夫は，～と思う」という質問に変え，妻（母親）による夫（父親）の自分への理解・支持の度合いを予想させる回答を求めた。各下位尺度の$\alpha$係数は，順に0.89, 0.80, 0.88である。本尺度を社会経済背景や家族構造の異なる国で用いることの妥当性については課題が残されている。今回は，両国の比較において互いの夫婦関係の認識をとらえるツールとして使用している。

4. 分析方法

CHSの5段階評価では，「あてはまらない」を1点，「あまりあてはまらない」を2点，「どちらでもない」を3点，「少しあてはまる」を4点，「あてはまる」を5点とした。結婚の“現実”尺度においても同様に点数化した。その後SPSS統計ソフトver17によるt検定，$\chi^2$検定，相関分析，一変量による一般線形モデル分析，F検定を行った。

5. 倫理的配慮

本研究に取り組むに当たって，研究者が所属する大学における平成17年度倫理委員会の審査による承認を受けた（承認番号＃19）。本研究の調査に先立ち施設長に研究目的，方法，意義，守秘義務，研究の協力および協力拒否が可能であることなどを説明し，研究の協力への承諾を得た。その後保育士より母親へ，本調査の目的，方法，意義，守秘義務，研究の協力および協力拒否が可能であること，特定の個人的情報が遺漏しないよう処理する旨（コード化し廃棄する），本研究以外にデータを用いることはしないことを明記した依頼文をもって説明を行い，本調査において調査に協力すると意志表示した者のみに調査を依頼した。質問紙の回答は答えたくないものは回答しなくてもよいなど本人の選択に基づいて記入できるようにした。

## Ⅲ．研究結果

1. 調査用紙の回収率

中国において調査用紙を回収できたのは650件（回収率92.6%）。そのうち欠損回答などを除いたため分析の対象となったのは640名（有効回答率91.4%）であった。日本において調査用紙を回収できたのは874名（回収率61.5%）。欠損回答などを除いたため分析の対象となったのは764名（有効回答率53.8%）であった。

2. 対象の属性

中国における母親の就労別人数は，フルタイム勤務80.8%，パートタイム勤務10%，専業主婦8%，母親の平均年齢30.9歳（SD = 3.7）であった。子どもの数は1人（SD = 0），家族形態では，核家族58.1%，複合家族39.4%，単身家族2.5%であった。また，日本における母親の就労別人数は，フルタイム勤務28.2%，パートタイム勤務29.5%，専業主婦39.4%，母親の平均年齢34.4歳（SD = 4.5）であった。子どもの数は2人（SD = 0.8），家族形態では，核家族66.2%，複合家族25.0%，単身家族5.6%であった（表1）。

3. 日本の母親との比較

中国における調査結果と，日本の母親を対象とした調査結果であるCHS，結婚の“現実”の比較を行った。2国間による比較のため属性変数に対する差の検定を行った結果，すべての項目において有意な差が認められた（表1）。このことから，日本と中国の比較では，一変量による分散分析を行った。国別要因を固定因子とし，CHSと結婚の“現実”の下位尺度項目を従属変数とし，母親の年齢，子ども数，家族形態，就労形態を共変量として設定したのち回帰直線の平行性の検定によって有意でないことを確認した。そののち一変量による一般線形モデルによる分析を行った。CHS，結婚の“現実”の結果では，表2に示されるように中国では日本に比べ結婚の“現実”における“相思相愛”，“夫への理解・支持”，“妻への理解・支持”のすべての下位項目に高値

表1　母親の属性

| | 中国　n = 640 | | | 日本　n = 872 | | | t値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 母親の年齢（歳） | 30.9±3.8 | | | 34.4±4.5 | | | 15.748 |
| 子どもの数（人） | 1.0±0 | | | 2.0±0.8 | | | 33.048 |
| | | | | | | | $\chi^2$値 |
| 家族形態 % | 核家族 | 複合家族 | 単身家族 | 核家族 | 複合家族 | 単身家族 | |
| | 58.1 | 39.4 | 2.5 | 66.2 | 25 | 5.6 | 496.151 |
| 母親の就業 % | フルタイム | パートタイム | 専業主婦 | フルタイム | パートタイム | 専業主婦 | |
| | 80.8 | 10 | 8 | 28.2 | 29.5 | 39.4 | 46.147 |

；2国間の属性のt，$\chi^2$検定はすべての項目において有意差あり（P < 0.01）

表2　母親の育児幸福感と結婚の現実（日中比較）

| 下位尺度 | 中国 | 日本 |
|---|---|---|
| 子どもの成長 | 24.5** | 25.4** |
| 希望と生きがい | 33 | 32.7 |
| 親としての成長 | 27.3 | 27.4 |
| 子どもに必要とされること | 19.6** | 17.7** |
| 夫への感謝の念 | 19.2** | 17.1** |
| 新たな人間関係 | 14.3 | 14.0 |
| 子どもからの感謝と癒し | 10.1** | 11.0** |
| 出産と子育ての意義 | 10.2** | 10.7** |
| 相思相愛 | 14.2** | 12.4** |
| 夫への理解・支持 | 13.6** | 11.7** |
| 妻への理解・支持 | 14.1** | 12.4** |

；一変量による一般線形モデル分析　**P < 0.01
；表中の値は下位尺度項目の平均値である

で有意な差が認められている。また，CHSでは“子どもに必要とされる”と“夫への感謝の念”が有意に高く，“子どもの成長”，“子どもからの感謝と癒し”，“出産と子育ての意義”が有意に低い結果である。

とくに，CHSと結婚の“現実”の関係においては，日本ならびに中国において，それぞれに相関分析を行った結果，すべての下位項目に有意な相関が認められた。日本では“夫への感謝の念”が結婚の現実の下位項目すべてにやや強い相関を示しており，中国においては，“子どもの成長”や“出産と子育ての意義”と結婚の現実の下位項目すべてに弱い相関がある（表3）。

次にこれらの2国間におけるCHSならびに結婚の“現実”の分析結果にみられる特徴をふまえて，とくに中国の母親のCHSと結婚の“現実”

表3　中国と日本の母親の育児幸福感と結婚の現実の相関（Peason）

| | 中国 | | | 日本 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 下位尺度 | 相思相愛 | 夫への理解・支持 | 妻への理解・支持 | 相思相愛 | 夫への理解・支持 | 妻への理解・支持 |
| 子どもの成長 | 0.325 | 0.369 | 0.316 | 0.103 | 0.11 | 0.106 |
| 希望と生きがい | 0.264 | 0.276 | 0.267 | 0.299 | 0.221 | 0.199 |
| 親としての成長 | 0.212 | 0.264 | 0.242 | 0.215 | 0.277 | 0.202 |
| 子どもに必要とされること | 0.188 | 0.232 | 0.219 | 0.145 | 0.250 | 0.079 |
| 夫への感謝の念 | 0.203 | 0.295 | 0.266 | 0.618 | 0.416 | 0.575 |
| 新たな人間関係 | 0.195 | 0.287 | 0.255 | 0.249 | 0.307 | 0.198 |
| 子どもからの感謝と癒し | 0.272 | 0.340 | 0.304 | 0.135 | 0.156 | 0.148 |
| 出産と子育ての意義 | 0.303 | 0.352 | 0.355 | 0.201 | 0.268 | 0.140 |

；すべての項目において有意差あり（P < 0.01）　；すべての項目において有意差あり（P < 0.01）
；表中の値は相関係数である

に影響を及ぼすと考えられる属性要因の検討を行った。

4. 中国の母親の育児幸福感および結婚の“現実”と属性検討

本研究で使用した2つの尺度（CHS，結婚の現実）において母親の就労形態，母親の年齢，家族形態によって違いを確認するための検討を行った。まず，中国の母親のCHS（8下位尺度項目）が母親の就労形態（フルタイム勤務，パートタイム勤務，専業主婦），母親の年齢（20歳代，30～34歳，35歳以上），家族形態（核家族，複合家族，単身家族）による影響を明らかにするため，一元配置分散分析を行った。その結果，母親の年齢とCHSの平均値には3群間に有意差はなかった。また，CHSの8下位尺度において，母親の就業形態において“子どもの成長”と“出産と子育ての意義”に，専業主婦とフルタイム勤務の群の間に有意な差がみられ，フルタイム勤務に比べ専業主婦が平均値は低かった。さらに家族形態において，“子どもからの感謝と癒し”と“出産と子育ての意義”において有意な差がみられ，核家族が単身家族に比べ，複合家族が単身家族に比べて有意に高い結果となった（表4）。

同様にフルタイム勤務，パートタイム勤務，専業主婦，さらに20歳代，30～34歳，35歳以上や核家族，複合家族，単身家族の3群において，結婚の“現実”の3下位尺度の平均点の差の検定を一元配置分散分析により行った。その結果，母親の年齢と結婚の“現実”の尺度の平均点には3群間に有意差はなかった。また，母親の就業形態において“相思相愛”と“夫への理解・支持”に有意差はなかったが，“妻への理解・支持”に，専業主婦とフルタイム勤務の間に有意な差がみられ，フルタイム勤務に比べ専業主婦が平均値は低かった。さらに家族形態において，“相思相愛”と“夫への理解・支持”，“妻への理解・支持”のすべての項目において有意な差がみられ，核家族が単身家族に比べ，複合家族が単身家族に比べ有意に高い結果となった（表5）。

## Ⅳ．考　察

本研究では探索的因子分析[8]の結果得られた，41項目8因子構造からなるCHSおよび結婚の“現実”の中国と日本の比較を行った。中国の母親は日本の母親に比べ夫と妻の結婚生活の認識は高いといえる。このことは，日本に比べ結婚生活における夫婦間の気持ちは強く互いの理解は得られているとの認識であり，CHSにおいても“夫に対する感謝の念”や1人っ子の育児による“子どもに必要とされている”が高いといえる。このことは，中国の子育て期において，夫婦共働きであり，

表4　中国の母親の育児幸福感と母親の年齢／家族／就業形態の関係

| 下位尺度 | 20歳代 n＝232 | 30～34歳 n＝288 | 35歳以上 n＝119 | F値 | 核家族 n＝372 | 複合家族 n＝252 | 単身家族 n＝16 | F値 | フルタイム n＝516 | パートタイム n＝64 | 専業主婦 n＝51 | F値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 子どもの成長 | 24.3 | 24.6 | 24.6 | 2.42 | 24.6 | 24.4 | 23.8 | 1.075 | 24.5* | 24.6 | 23.8* | 3.422 |
| 希望と生きがい | 33.0 | 32.8 | 33.6 | 2.449 | 33.0 | 33.0 | 32.7 | 0.058 | 33.2 | 32.6 | 32.2 | 2.074 |
| 親としての成長 | 27.0 | 27.3 | 28.0 | 2.698 | 27.6 | 27.2 | 25.4 | 1.712 | 27.5 | 26.8 | 26.3 | 2.504 |
| 子どもに必要とされること | 19.5 | 19.6 | 19.8 | 0.914 | 19.4 | 19.5 | 19.6 | 0.845 | 19.6 | 19.6 | 19 | 0.987 |
| 夫への感謝の念 | 19.1 | 19.2 | 19.4 | 0.378 | 19.2 | 19.1 | 18 | 2.052 | 19.2 | 19.4 | 18.5 | 2.027 |
| 新たな人間関係 | 14.2 | 14.3 | 14.5 | 0.966 | 14.1 | 14.1 | 14.0 | 2.359 | 14.3 | 14.4 | 13.8 | 0.714 |
| 子どもからの感謝と癒し | 10.1 | 10.2 | 10.3 | 0.551 | 10.1* | 10.0 | 9.0* | 4.061 | 10.1 | 10.2 | 10 | 0.184 |
| 出産と子育ての意義 | 10.1 | 10.1 | 10.3 | 0.753 | 10.1* | 10.0* | 9.5 | 3.894 | 10.2* | 10.2 | 9.4* | 4.214 |

：F検定　ns　　：F検定　*P＜0.05　　：F検定　*P＜0.05

：表中の値は下位尺度項目の平均値である

表5　中国の母親の結婚の現実と母親の年齢／家族／就業形態の関係

| 下位尺度 | 20歳代 n＝232 | 30～34歳 n＝288 | 35歳以上 n＝119 | F値 | 核家族 n＝372 | 複合家族 n＝252 | 単身家族 n＝16 | F値 | フルタイム n＝516 | パートタイム n＝64 | 専業主婦 n＝51 | F値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 相思相愛 | 14.3 | 14.3 | 14.0 | 0.917 | 14.3* | *14.2 | *11.0* | 9.687 | 14.2 | 14.1 | 13.8 | 0.549 |
| 夫への理解・支持 | 13.6 | 13.8 | 13.5 | 0.64 | 13.4* | *13.6 | *11.1* | 7.407 | 13.7 | 13.8 | 13.0 | 1.473 |
| 妻への理解・支持 | 14.1 | 14.3 | 14.1 | 0.624 | 14.3* | *14.2 | *11.4* | 8.151 | 14.3* | 13.7 | 13.4* | 5.495 |

：F検定　ns　　：F検定　**P＜0.05　　：F検定　**P＜0.05

：表中の値は下位尺度項目の平均値である

お互いが協力して子育てと仕事の両立を図ることがあたり前であり，また，子どもは1人であるため，互いが協力して子どもの教育費を稼ぎ投資していくという点においても同一の目標をもっていることが関係していると考えられる。また，夫婦関係においても，子どもは1人であるという社会全体の強制的規定のなかで，夫婦は早くから自分たちのライフスタイルを確立していることから，夫婦の関係は結婚当初の関係を維持しやすいのではないかと考えられる。また，中国の女性は比較的はっきりと自分の考えを表現するため，夫婦間のわだかまりなどは日本におけるものほど残らないと考えられる。しかし一方では，男尊女卑の根強い思想も残っており，また結婚においても愛情がなくなったら離婚を選ぶという女性が増え，離婚率は地域によって差はあるものの16～35%と報告され，初婚年齢が高まり，同棲やDINKSもあらわれるなど結婚観の変化がみられていることから，時代を経るに従って中国の母親の認識に変化がみられることが予測される。

つぎに，CHSにおいては8下位尺度項目では“夫への感謝の念”ならびに“子どもに必要とされること”についてのCHSが中国で高い結果となった。このことは，結婚の“現実”の結果において“相思相愛”や“妻への理解支持”が高いことから，“夫に対する感謝の念”の意識が子育てにおいても高くなり，また，1人っ子であることが，子どもの側からより一層親に頼らざるをえない状況となり，親自身も自分がいなければならないという気持ちから子どもに必要とされているという意識をもちやすいのではないかと考える。

さらに中国の母親の属性要因との分析の結果について考察する。中国の母親の就業形態においてはフルタイム勤務において，専業主婦に比べ，“妻への理解・支持”が高く，“子どもの成長”や“出産と子育ての意義”が有意に高く，専業主婦の母親はすべての下位尺度項目において低い結果となった。中国の母親は，出産後6ヵ月には8割が職場復帰するなかで[4]，もともと正社員として就業した経験がなくアルバイトなどの非正規就業の形で働く，自営業者に雇われ，露天市場で商売をしたり，以前勤めたことがあるが，リストラされた場合が含まれる。いずれにしても大勢を占めるフルタイム雇用に比べ立場上不安定であり，子どもの子育てに関する幸福感も低い結果となっている。中国においてよりはっきりとCHSに違いがみられている。これは，中国の女性就業者は就業者全体の46.5%と世界的に高いレベルにあり，子育てと両立してフルタイムの就業をしている母親には，高学歴で専門職や現場労働職などの職種が多いことから，自分の生き方や子育てに対する価値観が形成されていることが関係しているかもしれない。中国の高学歴の母親の理想の子ども像は「自分で考えて行動」「勤勉」とされ[13]，中国の1人っ子政策の走りの親世代を迎えていることから，母親自らが同様の育ちを経ており子育てに対する迷いが少なく，むしろ自信をもっていることが考えられる。子育て期にもかかわらず，収入を得ていること，仕事をとおして形成されるキャリアが自信と充実感に大いに影響していると考えられる。

また，家族形態においては，“子どもからの感謝と癒し”や“出産と子育ての意義”において単身家族や複合家族に比べ核家族の母親が高いことが明らかとなった。中国では，子育てのネットワークが確立しており[5]，実家や親族ネットワークなどのインフォーマルな援助と，育児休業，保育園の協力などのフォーマルな援助が欠かせない。単身による子育てはこうしたサポートネットワークを十分受けることが難しく，とくに親族のサポートが得にくいという状況が生じると推察される。

中国における単身家族で子育てをしている母親は少数ではあるが，さまざまな人の助けを得ることの重要性を認識し，単に自分1人だけで子育てをしているのではない，1人ではできないことに目を向ける働きかけが必要となる。近年，中国では育児や子どもの教育の素材は，テレビ，新聞，ラジオなどマスコミに多く取り上げられ育児相談や育児ホームページなどもみられるようになった。とくに，3歳になる前の子どもは家庭で育てられるか，保育園で育てられるか家庭事情によって異なり，保育や教育の形態はさまざまであり，日常の保育上の問題は各地域の保健所で相談するか育児電話相談などがあるが系統化はなされてい

ない[14,15]。こうした社会のバックアップ体制のより一層の充実が課題といえる。

本研究より，中国の母親がフルタイム勤務で働くことは，育児幸福感によい影響を及ぼしていると考えられる。フルタイム勤務の仕事をもつ母親たちは“子どもの成長”，“出産と子育ての意義”の喜びをより感じ，育児中の母親の精神的健康を保ち続ける要因となっていると考えられる。

## V．結　語

中国の母親の育児幸福感を測定する尺度として，41項目，8下位項目からなるCHSを用い，母親の就業，母親の年齢，家族形態との分析を行った。その結果として母親の雇用形態が，子育ての受け止めに影響していることが明らかになった。より充実した子育てを行うためにも，母親が仕事をもち，社会との関係を保ちながら生きている1人の人間としてあることが大切なことである。一方，中国の母親の年齢による違いはすべての育児幸福感および結婚の“現実”に影響されない要因と考えられた。

（謝辞：本研究にあたり，質問紙調査にご協力いただきましたお母様方，および各保育園長，保育士の皆様に深く感謝いたします。調査用紙の翻訳にあたり尽力いただいた天津中医薬大学　高健氏にお礼申し上げます）

（本研究は平成17－19年度科学研究費補助金（基盤C　課題番号17592258）を受けて開発された尺度（CHS）を用いた研究である）

## 文　献

1) 高健，郷間英世，小寺沢敬子，他．就学前幼児の社会生活能力について―日本と中国の比較を通しての検討―．小児保健研究．1999，58，458－464.
2) 高健．中国の幼児における着衣重量・戸外遊びと運動能力及び関連要因の検討．民族衛生．2004，70，146－160.
3) 馬銅，平山宗広．ひとりっ子の母親の養育態度に関する研究　日本と中国の比較を通しての検討．小児保健研究．1989，48，353－358.
4) 姜波，佐々木正美，八重樫牧子，他．岡山・上海・大連における子育てに関する比較考察．川崎医療福祉学会誌．2002，12，197－208.
5) 落合恵美子．グローバル化する東アジアの低出生率．学術の動向．2008，4，27－34.
6) 清水嘉子．母親の育児ストレス国際比較―韓国（京幾道）・中国（北京）・ブラジル（ブラジリア）・日本（静岡）から―．母性衛生．2004，45，159－169.
7) 唐軼斐，矢島裕樹，桐野匡史，他．中国都市部における父母の幼児に対するマルトリートメント傾向．日保学誌．2006，9，16－23.
8) 清水嘉子，関水しのぶ，遠藤俊子，他．母親の育児幸福感―尺度の開発と妥当性の検討．日本看護科学会誌．2007，27，15－24.
9) 柏木恵子，平山順子．結婚の“現実”と夫婦関係満足との関連性―妻はなぜ不満か．心理学研究．2003，74，122－130.
10) 清水嘉子，伊勢カンナ．母親の育児幸福感と育児事情の実態．母性衛生．2006，75，344－351.
11) Lazarus RS (ed.). The stress and coping paradigm. In Models for Clinical Psychopathology. New York，1981.
12) Lazarus R, Folkman S. 本明寛他訳．ストレスの心理学．東京，実務教育出版．1991，269－277.
13) 国偉．中国都市部における子育ての特徴に関する調査研究―中学生を持つ親を対象として―．立命館産業社会論集．2006，4，1，129－141.
14) 鄭楊．在日中国人家庭の育児形態に関する一考察―関西在住中国人家庭の育児援助の事例から―．都市文化研究．2006，8，72－87.
15) 劉亜梅．中国の育児と日本の育児．小児保健研究．2003，62，442－445.

# Marital reality and childcare happiness for Chinese mothers in urban areas of China
## — A comparison with Japanese mothers in Japan —

Nagano College of Nursing
Yoshiko Shimizu

**Abstract**

The purpose of this study was to compare perceptions of childcare happiness and marital reality between Chinese and Japanese mothers, and to examine the association of demographic variables with childcare happiness and marital realty in Chinese mothers. A total of 640 Chinese and 764 Japanese mothers with a child between the ages of 0 to 6 participated in the study. A questionnaire survey was used to measure childcare happiness with the Childcare Happiness Scale (CHS) consisting of 8 subscales. We further examined the influence of marital life using a marital reality scale consisting of 3 subscales. Statistical analysis was performed. For marital reality, Chinese mothers scored higher on all 3 subscales compared to Japanese mothers. In particular, scores for 2 scale items, "gratitude towards husband" and "feeling needed by children" were higher in Chinese mothers. Furthermore, results differed depending on the mother's working status-full-time worker, part-time worker, or full-time homemaker - and on family structure - nuclear, extended, or single-mother family. Age of mothers did not impact the 8 subscales of the CHS and 3 subscales of the marital reality scale. Our findings suggest that being in a nuclear family and working full-time are key factors that can promote better mental health in Chinese mothers during child-raising years.

Key words : urban China, mother, child care happiness, marital reality